



岡本真利子 議員
(政清会)



問 発達性読み書き障害であるディスレクシアは学習障害のひとつのタイプとされ、全体的な発達に遅れはないものの文字の読み書きに限定した困難があり、知能や聴いて理解する力、発話で相手に自分の考えを伝えることに問題がないとしても、読み書きの能力だけに困難を示す障害のことを言い、学業不振などが生じる疾患であることから以下について伺う。
(1)小中学校においてディスレクシアの疑いのある子どもの把握状況は。
(2)関係機関との迅速な連携体制は。
(3)保護者に対する理解を促す必要性について。

教育長

(1)ディスレクシア等の学習障害は、障害そのものの社会的な認知が十分でないことや、一部の能力習得と使用のみに困難を示すものであるため、障害の存在が見逃されやすく、明確な困り感がある児童生徒以外の把握は困難な状況にある中、現在、18人の児童生徒を

問 発達性読み書き障害(ディスレクシア)への支援について
答 一人ひとりの教育的ニーズを把握し今後適切な指導や必要な支援を行っていく

把握しており、個々の学習障害に応じた教育的対応に努めている。
(2)保護者・本人の了承を得た上で、校内で情報を共有し指導上の配慮に取り組んでいるほか、町発達支援センターにおいて読み書きを含む知的面を客観的に評価・分析し、より具体的な支援方法を共有し、その程度によって校内や関係機関も含めて行うケース検討会議および校内教育支援委員会で協議をするなど、個々に判断をしている。

言語障害通級指導教室への通級、医療機関への受診等については、保護者、学校、町発達支援センターなどの関係機関が連携して、読み書きをはじめとする学習上の困り感によって、二次的な学校不適応にならないよう、早期の対応に努める。
(3)ディスレクシアをはじめとする学習障害などの発達障害については、保護者の理解が不可欠である。保護者をはじめとする全町民向けに、子どもの発達や発達障害の理解促進・啓発を目的に、町発達支

再質問

教員が日々学習指導の中でディスレクシアの疑いのある児童に対してどのように寄り添い、また、合理的配慮への理解周知に努めているのか。

答

教職員は、教育分野だけでなく福祉分野などの研修会へ参加し、特性や指導方法について学んでいる。保育所・幼稚園からの情報を基に、学習の中できめ細やかな観察を行いながら児童生徒の困り感に気づき、発見に至っており、個々に適正な指導や支援を行っている。



問 グリーンライフ・ポイント推進事業の検討について
答 事業の考え方を参考に温室効果ガス削減の手法の検討をする

問 グリーンライフ・ポイント推進事業とは環境省が実施する事業で「環境に配慮した行動に対してポイントが付与される制度」である日本の温室効果ガス排出量は全体の6割が衣食住を中心とした家庭関連である。企業や自治体等の努力だけでは難しく国民一人ひとりに意識してもらおう施策が必要である。

(1)本事業に対する本町の認識は。
(2)脱炭素型ライフスタイル転換のために本事業への取り組みの必要性は。

町長

(1)「幕別町地球温暖化対策推進委員会」温室効果ガスの削減について議論しているが、グリーンライフ・ポイント推進事業は、有効な方策の一つである。国の支援については令和4年度で終了するが、今後、推進委員会の中でグリーンライフ・ポイント推進事業の考え方を参考に、幕別町商工会が導入する電子地域通貨「まくPay」の活用も含め検討していく。